

2021 年度 八戸工業大学 公開講座 報告

社会連携学術推進室

論文要約

2021 年度、今後の開催予定を含む 40 回の公開講座を計画した。今年度、公開講座の企画方法を大きく変え、講演会型、体験型、公民館型の 3 タイプに分けて運営した。また、八戸ブックセンターや地域振興を目的とする市民団体「ふるさとルネッサンス」との協働し、開催をおこなったものもあった。コロナ禍の影響を含め様々な問題が生じ、今後の公開講座運営に当たってはさらなる改良が必要なが確認した。

キーワード：大学教育、研究紹介、見える化

Annual Report of Open College of Hachinohe Institute of Technology in FY2021

Office for Promotion of Academic Collaboration

ABSTRACT

In FY2021, we planned 40 programs in the open college of Hachinohe Institute of Technology, including those to be held during the fiscal year. We have changed programs of the open collage, dividing into three categories: lecture-type, practice-type, and community center-type. Some of the programs were held in cooperation with Hachinohe Book Center and “Furusato Renaissance,” a citizens’ group that aims to create local communities. Various problems arose, including the effects of the corona disaster, and it was confirmed that further improvements are needed in the management of coming open colleges.

Keywords: *research, university education, visualization*

令和 4 年 3 月 1 日

*八戸工業大学 社会連携学術推進室

1. はじめに

本年度より、公開講座の企画運営が学務部教務担当から社会連携学術推進室に移動した¹⁾。本学の存在を知らない八戸市民はいないが、具体的な教育・研究活動が分からない／知らないとの声も多く聞かれる。これに対応するため、公開講座の形態を大きく変更した。本稿は、今後の企画・運営やその記録のため、本年度実施した公開講座企画の経緯と、その内容や、実施にあたりおこなったコロナ感染対策などを公開するものである。各方面の今後の参考となれば幸いである。

2. 公開講座企画の経緯

2020年12月17日に実施した第650回定例教授会にて、八戸工業大学公開講座規定改正（案）が提案され、審議を経て承認された。これにより、公開講座の企画運営が学務部教務担当から社会連携学術推進室（以下、社連室と略称する）に移動した。

2021年度公開講座の企画に関しては、社会連携学術推進室（星野保、黒滝泰世：以下、本学所属の個人については、その敬称・肩書を省略した）を事務局とし、地域産業総合研究所および基礎教育研究センターから推薦を受けた高瀬慎介・土屋拓也・畠山研によるワーキンググループにて、内容の検討をおこなった。

議論の結果、本学の教育・研究活動が分かりづらいとの声があるならば、八戸市中心街など市民が多く集まる場所で、通年開催するとの意見があり、これ軸に検討した。

2013年、本学では中心街のヴィアノヴァにサテライトを設けていた際、毎週土日に「HITウィークエンド」と称して市民向けに講演会や実験など実施していた。これを参考に、コロナ禍の影響もあり、多数の集客を目的とせず、10人程度の小規模の開催を検討した。

議論の結果、これを「講演会型公開講座」とし、その通称を「マチナカ公開講座」とした。これを毎月3回づつ、年間36回の実施を検討した。

会場は、毎回同じ場所で実施することで参加者に分かりやすく、覚え易くなることから八戸市中心街の八戸ポータルミュージアム はっち（以下、はっちと略）を中心に検討した。

講師となる担当教員は、学科等に回数を振り分けると所属人数によるばらつきが生ずることから、五十音順とし、各教員が2年に1回担当を想定した。

また、本学教員は、これまでに八戸市中心街にある八戸ブックセンターからの依頼によるアカデミック・トークに参加していた。この機会を拡大と本学公開講座の回数増加を目的に、八戸ブックセンターとの共同による本

学公開講座の実施を検討した。

本件に関して、八戸ブックセンターの森佳正 主任企画運営専門員・太田博子 企画運営専門員と相談し、ワーキンググループから提供したこれまでの公開講座や出前講義のリスト基に議論した。この中で八戸ブックセンターが関心を示した内容に絞り込み、担当する教員を含む打ち合わせをおこない、5回程度を双方の共同での実施を検討することとし、これを講演会型公開講座に含めることとした。

さらに本学で実施している学内プロジェクト（しまもりSDGs実践プロジェクトやブランディング事業）から5回程度を実施を検討し、同様に講演会型公開講座に組み込むこととした。しまもりSDGs実践プロジェクトに関する公開講座では、八戸市南郷島守地区の住民を対象とすることから、島守地区での実施を検討した。

従来、本学各学科・基礎教育研究センターで実施していた公開講座は、「体験型公開講座」とし、本年度従前の年7回の実施を検討した。

また、これまでに本学で作成した出前講義のリストを公民館などに提供し、公民館などからの依頼を受けた公開講座の実施を検討した。これを「公民館型公開講座」とした。

3. 公開講座の宣伝活動

前年の体験型公開講座のみ実施していた際には、その年の4月をめどに内容を取りまとめ、地元紙に折り込み広告を入れていた。

今年度から従来の体験型に加えて、通年で実施する講演会型や、不定期で実施する公民館型が見込まれ、その調整に時間が掛かり、後述のコロナ禍による変更も想定されることから、地域紙への折り込み広告の作成を休止した。

その代わりに本学のインターネットホームページ上に公開講座の案内を設けると共に、各月に実施する公開講座の内容をまとめたチラシを作成し、八戸市役所・公民館・はっち・八戸市立図書館・八戸ショッピングセンター ラピア等に配布・掲示を依頼した（図1）。

SNS (https://twitter.com/hit_koukaikouza) による情報発信、広報はちのへや地元紙へのイベント欄への掲載を依頼した。また、地元コミュニティラジオ (BeFM) にて公開講座の宣伝を2回おこなった（社連室の星野・齋藤克治が出演した）。ある程度、公開講座が実施された2021年11月に、それまでの記録のために撮影した動画を編集し、Youtubeに公開講座CM (<https://www.youtube.com/watch?v=1UmOZFJnTpw>) を公開した。

体験型公開講座については、それぞれの公開講座の実施前にチラシを作成し、八戸市内の小中学校に配布した。

八戸工業大学
Hachinohe Institute of Technology

マチナカ 公開講座

5月開催分のお知らせ

申し込み不要
受講料無料
会場にお越し下さい

工学・デザイン・地域・教養に関連したトピックス等を提供する一般向け講座

5/15 (土) 13:30~15:00
講師 浅川 拓克 准教授
テーマ: 医師連携 ~地域の医療体制充実のために~

5/16 (日) 13:30~15:00
講師 川本 清 教授
テーマ: 光の科学と持続可能な社会

5/23 (日) 13:30~15:00
講師 石山 武 教授
テーマ: LEDのしくみ「半導体はなぜ光る?」

5/29 (日) 13:30~15:00
講師 石毛 清八 准教授
テーマ: 北斎とリヴィエール 2つの三十六景

お問い合わせ
八戸工業大学 社会連携学術推進室 公開講座担当
☎ 0178-25-8005 ☒ kaikaku@hi-tech.ac.jp

会場 八戸ポータルミュージアム はっち
〒031-0032 青森県八戸市三日町11-1
TEL:0178-22-8228 FAX:0178-22-8808

図1. 配布したチラシの一例

4. 実施した公開講座

表1に2021年2月末時点での実施した公開講座のリストを示す。3月に予定されているものを含めて、合計40回実施予定である。その内訳は講演会型31回（ブックセンターとのコラボ分4回、しまもりSDGs実践プロジェクト分5回を含む）、体験型7回（しまもりSDGs実践プロジェクト分1回を含む）、公民館型1回であった。参加者の延べ人数は、344名であり、一回当たりの参加者平均は9.6人/回であった。前年度は、今年度の体験型の実施であり、ここでは7回の実施で、188名の参加が報告されている。少人数の参加者であっても、回数を重ねることで多くの市民にアピール可能であることが確認できた。

ひらないカレラ

ふるさと歴史講座

令和3年8月4日(水)
10:00 ~ 12:00
平内町山村開発センター

講師: 八戸工業大学生命環境科学科 教授 田中 義幸 氏

※この講座は八戸工業大学公開講座です。誰でも参加できます

【お問い合わせ】
平内町教育委員会生涯学習課「平内町山村開発センター」
☎ 0178-22-2222 ☒ hikaku@hachinohe-city.jp
TEL: 017-750-2565 FAX: 017-750-2070

右下に講師である田中義幸教授の下に赤字で「※この講座は八戸工業大学の公開講座です、誰でも参加できます」と記されている。

図2. 公民館型公開講座のチラシ

5. コロナ禍における対応

本年実施した公開講座も昨年同様、コロナ禍の影響を大きく受けることになった。今年度使用した会場では、いずれも入館時に体温測定や手指消毒が実施されており、公開講座の参加者には新型コロナウイルス感染発生時の連絡先を確認することとした。

また、2021年は7月に学内で新型コロナウイルス感染者が発生したことを受け、7月中旬からの公開講座を8月まで休止した。さらに同年9月、翌年2月には、青森県内の感染者数の増加を受け、予定した会場が休館となり、公開講座の休止を余儀なくされた。

表 1. 2021 年度に実施した公開講座

| 回 | 開催日 | 形式 | 講師名 | 題名 | 会場 | 参加数 | 備考 |
|----|--------|------|-------------|--|-------------------|-----|----------------------------|
| 1 | 5月15日 | 講演会型 | 浅川拓克 | 医工連携～地域の医療体制充実のために～ | はっち ^a | 8 | |
| 2 | 5月16日 | 講演会型 | 川本清 | 光の科学と持続可能な社会 | はっち | 8 | |
| 3 | 5月23日 | 講演会型 | 石山武 | LEDのしくみ「半導体はなぜ光る？」 | はっち | 7 | |
| 4 | 5月29日 | 講演会型 | 石毛清八 | 北斎とリヴィエール 2つの三十六景 | はっち | 12 | |
| 5 | 6月12日 | 講演会 | 鮎川恵理 星野保 | 種差海岸に萌える！～津波に負けない強さのヒミツ～ | 八戸市立南浜公民館 種差海岸 | 31 | ブックセンター ^b とのコラボ |
| 6 | 6月13日 | 講演会型 | 太田勝 | ブランコはなぜ揺れる | はっち | 5 | |
| 7 | 6月26日 | 講演会型 | 伊藤智也 | 写真計測による3Dデータの有効活用 | はっち | 6 | |
| 8 | 7月10日 | 講演会型 | 岩見一郎 | 近代北東北における英語との遭遇 | ブックセンター | 6 | |
| 9 | 7月11日 | 講演会型 | 関秀廣 | 光のトリックを見破る | はっち | 6 | |
| 10 | 8月4日 | 公民館型 | 田中義幸 | 浅所小学校 白鳥観察記録と浅所海岸の環境 | 平内町山村開発 センター | 20 | ひらないカレッジ ふるさと歴史講座の一部 |
| 11 | 8月7日 | 講演会型 | 川守田礼子 | ◆菱刺しは南部のダイヤモンド◆ | はっち | 23 | |
| 12 | 8月21日 | 講演会型 | 岩崎真梨子 | 耳で味わう「盆土産」 | マチニワ ^c | 20 | ブックセンターとのコラボ |
| 13 | 8月28日 | 講演会型 | 神原利彦 | Depth Cameraによる3次元マップの自動生成 | はっち | 2 | |
| 14 | 10月9日 | 講演会型 | 宇野あずさ | 色の解剖学～自然物から顔料と絵具をつくる～ | アキヤブ ^d | 4 | |
| 15 | 10月17日 | 講演会型 | 皆川俊平 | 誰のためのコミュニティデザインなのか-当事者意識をつくる | アキヤブ | 2 | |
| 16 | 10月23日 | 講演会型 | 佐藤手織 | なぜ世界はこのように見えるのか？ | ブックセンター | 10 | ブックセンターとのコラボ |
| 17 | 10月24日 | 体験型 | 本波洋 | ロボットプログラミング講座 ～本格ロボが物をつかんだり走ったりするぞ～ | 本学・ 機械工学科棟 | 10 | |
| 18 | 10月30日 | 講演会型 | 西尾洸毅 | 空き家対策のはなし | アキヤブ | 11 | |
| 19 | 10月31日 | 講演会型 | 小藤一樹 | 学生の卒業設計から見た八戸 | アキヤブ | 2 | |

| | | | | | | | |
|----|-------------------|------|----------------|---|---------------------|-----|--------------|
| 20 | 10月31日 | 体験型 | 本波洋 | ジュニアプログラミング講座 ～垂直な壁を走り回るプチロボット～ | 本学・システム 情報工学科棟 | 10 | |
| 21 | 10月25日～ 10月31日 | 体験型 | | 「住みたい家・住みたい街」コンクール2021 応募作品展示会 | はっち | 142 | 応募作品数 |
| 22 | 11月3日 | 体験型 | 石山俊彦 | おもしろ電子工房～金属たんち機を作ろう！～ | 久慈市中央市民 センター | 14 | |
| 23 | 11月7日 | 体験型 | 片山裕美 | たのしい理科教室 ガラスの特性・ガスバーナーの構 造を学びオリジナルマドラーをつくってみよう | 本学・ 第1化学実験室 | 10 | |
| 24 | 11月7日 | 講演会型 | 星野保 | いまさらですが、しまもりSDGsの紹介と、 2月におこなった味噌玉の今 | 島守うえの館 ^o | 12 | しまもりSDGs |
| 25 | 11月7日 | 講演会型 | 花田一磨 | 農村電化と再生可能エネルギー | 島守うえの館 | 12 | しまもりSDGs |
| 26 | 11月13日 | 体験型 | 皆川俊平・ 宇野あずさ | 地域づくりを語る会 地域資源×アートのまちづくり | アキヤブ 八戸ニューポート | 10 | |
| 27 | 11月14日 | 講演会型 | 鈴木拓也 | 飲み水の未来とSDGs | 島守うえの館 | 12 | しまもりSDGs |
| 28 | 11月14日 | 講演会型 | 田中義幸 | 環境が変われば生物も変わる ～生物多様性と生態系機能の理解に向けて～ | 島守うえの館 | 12 | しまもりSDGs |
| 29 | 11月21日 | 講演会型 | 高瀬慎介 | しまもりで畑を借りて晴耕雨読なSDGsの取り組みについて | 島守うえの館 | 11 | しまもりSDGs |
| 30 | 11月27日 | 講演会型 | 越田俊介 | コンピュータを用いた音声・音響信号処理 | はっち | 3 | |
| 31 | 11月28日 | 講演会型 | 小玉成人 | 風力発電の基礎知識 | はっち | 4 | |
| 32 | 12月5日 | 講演会型 | 山本忠 | 外国語習得の秘訣伝授！～中国語の場合～ | ブックセンター | 12 | ブックセンターとのコラボ |
| 33 | 12月11日 | 講演会型 | 後藤厚子 | ゆたかな暮らしを考える～持続可能な「生活」とは？～ | はっち | 5 | |
| 34 | 12月12日 | 講演会型 | 小林正樹 | 化け学で環境・エネルギーを考えてみよう | はっち | 3 | |
| 35 | 12月18日 | 講演会型 | 坂本禎智 | 生活に身近な磁気の話（マグネットワールド） | はっち | 6 | |
| 36 | 12月19日 | 講演会型 | 迫井裕樹 | コンクリートって…？ | はっち | 5 | |
| 37 | 2月6日 | 体験型 | 星野保 | 味噌玉造り実習 | 島守うえの館 | 10 | しまもりSDGs |

| | | | | | | | |
|----|---------------|------|--------|----------------------------|--------|---|-------------------|
| 38 | 3月11日 (予定) | 講演会型 | 高瀬慎介 | 津波の数値計算について | 八戸市公民館 | — | 太平洋沿岸津波講演会 |
| 39 | 3月11日 (予定) | 講演会型 | 佐々木幹夫氏 | 馬淵川流域治水 | 八戸市公民館 | — | 3.11 防災フォーラム 2022 |
| 40 | 3月11日 (予定) | 講演会型 | 飛田善雄氏 | リスク論から見た自然災害：被害を大きくするものは何か | 八戸市公民館 | — | 3.11 防災フォーラム 2022 |

a: 八戸ポータルミュージアム はっち.

b: 八戸ブックセンター.

c: 八戸まちなか広場 マチニワ.

d: 本学内丸サテライトキャンパス.

e: 八戸市南郷島守外館 55 「ふるさとルネッサンス」事務局

6. 参加者の構成と反応

2021年5月15日～同年12月19日までに本学単独で実施した公開講座において、参加者に対して以下で示すアンケートを実施し、133名から回答を得た。

アンケートの内容は以下の通りである。

- ・性別
- ・年齢（10代から80代まで十歳ごとに区分）
- ・公開講座を知ったきっかけ
- ・理解度
- ・実施時間について
- ・今後の公開講座への参加について

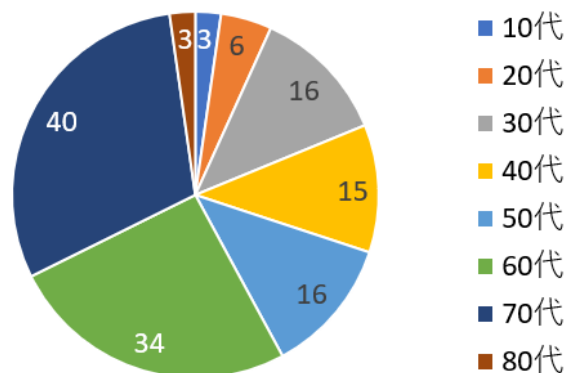
回答から参加者の性別は、男性62名、女性72名とほぼ同じ割合であった。参加者の年齢構成は、70代が最も多く、次いで60代であり、これらを合わせて55.6%を占めた（図3）。これら年齢構成は、公開講座実施前にワーキンググループにて議論した際の予想とほぼ同様であった。今回の公開講座の実施目的が、八戸市民に対する本学の教育・研究活動を紹介することであることを踏まえ、十分なアピールができたと判断した。

参加した公開講座を知ったきっかけの回答を図4に示す。最も多かったのは、はっちに掲示・配布したチラシであり、同様におこなった市役所・ブックセンター・ラピアを合わせると61.6%の参加者がチラシにより情報を得ていた。また、SNSや本学HPを通じて18.8%、新聞・ラジオを通じて16.5%の参加者が情報を得ていた。このため公開講座に関する情報を多様な媒体を通じて発信することが重要だと考える。

聴講した公開講座の参加者の理解度を図5に、公開講座の時間に関するアンケート結果を図6に示す。「理解できた」・「おおむね理解できた」と回答した参加者が全体の88.7%を占めたことから、多様な年齢層を対象に大学の教育・研究を紹介する公開講座の目的を達成できたと判断した。また、開催時間に関しては、参加者の83.5%が「ちょうどよい」と回答したことから、概ね問題なく運営できたと考えた。

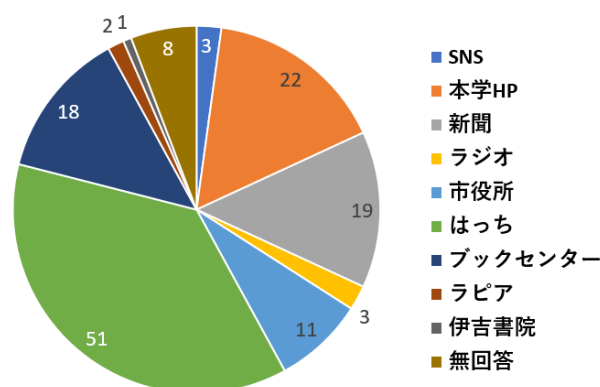
今後の公開講座への参加に関する回答を図7に示す。「数多くの受講をしてみたい」との回答が、33.8%と概ね好意的な評価が高かった。また、「内容によっては受講してみたい」が、41.4%とあり、公開講座の内容によって、集客に差があったこととも共通する。この点に関しては、後述する。

使用時間に関しては、参加者は概ね満足していると判断した。



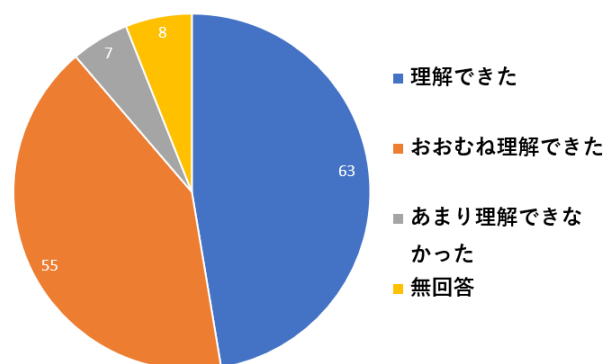
円グラフ内の数字は各年代の参加者数を示す。

図3. 参加者の年齢構成



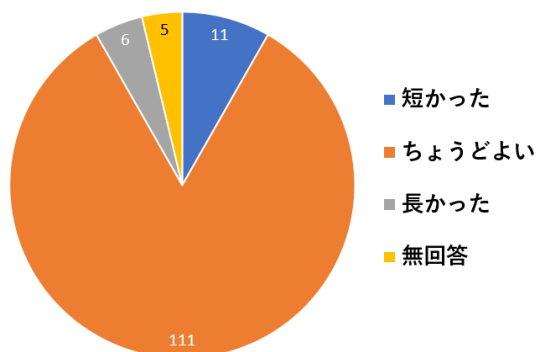
複数回答を含む。円グラフ内の数字は回答数を示す。

図4. 参加者の公開講座を知ったきっかけ



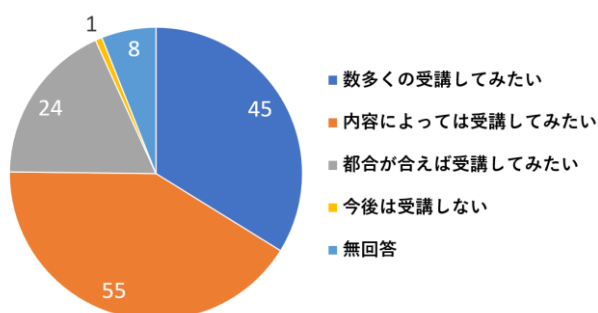
円グラフ内の数字は回答数を示す。

図5. 参加者の理解度



円グラフ内の数字は回答数を示す。

図6. 公開講座の使用時間に関する参加者回答



円グラフ内の数字は回答数を示す。

図7. 今後の公開講座参加に関する回答

7. 今後の課題

今年度の公開講座を実施した結果、様々な課題が浮き彫りとなった。主なものを提示すると以下の通りである。

・人的リソースの不足

公開講座の実施に当たっては、社連室職員1~2名が準備や設営、事務を担当した。公開講座は、参加者の都合を考慮し、週末の休日に実施することが多く、結果として職員の休日出勤が多くなり、これに対して半日の代休を付与することになった。しかし、公開講座の業務後、通常の休日同様の余暇・休憩を過ごすことは困難であった。このため学生アルバイトを雇用し、一回の公開講座に対して、社連室職員1名+アルバイト学生にて対応し、職員負担を軽減した。

・実施会場

今年度は、八戸市内中心部で継続して大学の教育・研究活動を紹介することで、市民に対して大学の活動の見える化を目的とした。

このため主な会場となったはっちでは、個室として講演会が実施可能な3階のギャラリー3以外に、1階のオープンスペースであるギャラリー1を多く利用した。ギ

ャラリー1には、はっちの入館者や館外を通行する歩行者へアピールする力は強いが、他のイベントと並行して実施するため雑音が多く、この点が参加者からの不満が大きかった。

次年度の公開講座は、八戸市番町に新たに設ける番町サテライトキャンパス（仮称）を中心に実施することから、上記の問題は解決できると考える。

・テーマ選定と集客

参加者アンケートから分かるように、「内容によっては受講してみたい」との回答が最も多かった。また、八戸ブックセンターとの打合せにおいても、ブックセンター側が考える参加者数が見込まれる話題と、教員側が考える紹介したい話題とに差があるケースがあった。

参加者数を増やす観点からすれば、これら参加者ニーズに合わせた内容が求められる。一方、大学では様々な研究が実施されており、言わばマイナーな研究を紹介・普及させることも重要であると考えられる。この点では、大学の持つニーズと参加者が期待するシーズとのバランスが重要となる。

・他機関との協働

今年度、新たな試みとして他機関との協働による公開講座を実施した。

「2. 公開講座企画の経緯」に記したように八戸ブックセンターの協働の公開講座を企画し、4回実施した。このうち前半2回は、ポスターなどを八戸ブックセンター側に準備して頂いた（図8）。後半2回は、ブックセンター側の求めもあり、社連室から感性デザイン学科 宇野あずさ助教を通じて学生に作成を依頼した（図9）。

八戸ブックセンターとの打合せや交渉は、これまで単独で公開講座を実施してきた本学側にとって大きな刺激を受けた。特に学生にポスター制作を依頼することは、学生の業績にもなるため、今後も検討したい。

また、しまもりSDGs実践プロジェクトに関連した公開講座は、ふるさとルネッサンスと協働で南郷島守地区にて開催した（表1）。コロナ禍の影響もあり、大きな集客を必要としない講演会は、様々な場所で開催できることが確認できた（図10）。withコロナの状況が続く中で、小規模の公開講座の利点を再確認した。

・コアなファンへの対応

企画では想定しなかったうれしい誤算として、連続して公開講座に参加する方が複数おられた。これら言わばコアなファン層を通じて、さらなる参加者の掘り起こしが期待できる。また、これらコアなファンへ、主催者側から感謝の意味を含めて対応を検討したが、コロナ禍による中止が続き、実施できず、残念であった。

星野 保 (八戸工業大学工学部生命環境科学科教授)

6/12 (土) 11:00 ~ 14:30 (昼休憩1時間)

場所: 種差海岸 (所定の場所に現地集合)

参加費: 300円 (保険料)

要予約 6/4 (金) までにお申込みください。

鮎川 恵理 (八戸工業大学工学部生命環境科学科准教授)

さまざまな花の咲く中、遊歩道や海岸を歩いて、海岸植物やキノコの生態やその生育環境を実感してみよう。日頃、種差海岸を散策することのない方の参加も大歓迎です。

【お問い合わせ・申込先】 八戸工業大学 (0178) 25-8005 / kaikaku@hi-tech.ac.jp

八戸工業大学 マチナカ公開講座連携 アカデミックトーク

なぜ世界はこのように見えるのか?

私たちの見ている世界は、本当に存在するのかわかることはありますか? 哲学やデザイン、ロボットの開発にまで影響を与えた、心理学の知覚論についてわかりやすく解説します。

2021 10.23 SAT 14:00- (※90分程度を予定しております)

講師: さとう たけり 佐藤手織

八戸工業大学 基礎教育研究センター / 異文化コミュニケーション担当

参加無料・要予約

【予約問合せ】 八戸工業大学 社会連携学術推進室 公開講座担当 電話 | 0178-25-8005 メール | kaikaku@hi-tech.ac.jp ※ご来場の際は、必ずマスクの着用をお願いします。

八戸工業大学

本のみち 八戸工業大学

耳で味わう 「盆土産」

ギョウリ一展 「中高生に伝えたい三浦哲郎」 開演イベント

南部弁を交え、三浦哲郎の「盆土産」を全文朗読。

本文中の南部弁のイントネーションを目でわかるように記号をつけ、解説。

第一部 14:00~ 榎谷伸夫 さん (八戸市公民館長)

第二部 14:45~ 岩崎真梨子 さん (八戸工業大学)

8/21 (土) 八戸まちなか広場マチニワ 予約不要

お問い合わせ 八戸ブックセンター 0178-20-8368

八戸工業大学 マチナカ公開講座連携 アカデミックトーク

外国語取得の秘訣伝授!

12.5 (日) 14:00-

講師: 山本忠 (八戸工業大学 准教授)

難しくはないけど、やっぱりそれなりの努力が必要な外国語。でも、コツを掴めば勇気百倍、自信も湧いて来ます。是非体験してみたいと思います。

八戸ブックセンター 読書会ルーム

【予約問合せ】 八戸工業大学 社会連携学術推進室 公開講座担当 電話 | 0178-25-8005 (メール) | kaikaku@hi-tech.ac.jp (ポスター制作) | 読書会 (八戸工業大学 デザイン学部)

提供：八戸ブックセンター

作成者：10/23分 佐々木南海、12/5分 胡景瑛

図8. 八戸ブックセンターとのコラボ企画としてブックセンター側が準備したポスター

図9. 八戸ブックセンターとのコラボ企画として本学で準備したポスター



上：第29回講演会開始前の上野大輔ふるさとルネッサンス代表による趣旨説明
下：第37回 味噌玉造り実習の一コマ

図10. 島守うえの館での公開講座の様子

8. おわりに

2021年度、今後の開催予定を含む40回の公開講座を計画した。今年度、公開講座の企画方法を大きく変え、講演会型、体験型、公民館型の3タイプに分けて運営した。コロナ禍の影響を受け、また、初めての試みのため、多くの問題点はあったが、多くの公開講座を実施したことは運営として大きな自信となった。今後、この経験を生かし、さらなる改良を加えていきたい。

謝 辞

今年度公開講座の実施に当たって協働し、開催にご尽力頂いた、八戸ブックセンター 森佳正 主任企画運営専門員・太田博子 企画運営専門員、ふるさとルネッサンス 上野大輔 代表に感謝致します。また、アルバイトとして会場の設営・運営に参加した、本学大学院博士後期課程1年 堀合紳弥様・工学部土木建築工学科4年 柁谷みなみ様に感謝します。

今年度の公開講座の実施に当たっては、本学教員の多数の方々が講師として参加して頂きました。この場を借りて感謝致します。

参考文献

- 1) 阿波稔, 石山武, 宮越直幸, 佐藤学, 本田洋之, 西尾洸毅, 橋詰豊, 石山俊彦, 本波洋 (2021) 令和2年度 八戸工業大学公開講座. 八戸工業大学紀要 40: 144-158